

看護における モニタリングの役割と重要性

座長

山口 典子先生

長崎大学病院 看護師長 集中ケア認定看護師

演者

道又 元裕先生

杏林大学医学部付属病院 看護部長

日時

2015年6月20日(土) 12:00~13:00

会場

福岡大学病院メディカルホール

共催

第25回日本集中治療医学会九州地方会
エドワーズライフサイエンス株式会社

看護におけるモニタリングの役割と重要性

杏林大学医学部付属病院 看護部長

道又 元裕

臨床における患者モニタリング (monitoring) の役割と重要性は何かといいますと、それは「患者のいのち」を守るための大切なものということです。

モニタリングという用語は、監視、確認、観察、測定など幅広い意味を持っています。では、モニタリングの対象は、患者そのものであり、または、患者から発信される生体のデータということになります。患者さんにとって意味のあるものや、データを人(ここでは看護師)が解釈した結果のことを情報と呼びます。

看護師は、患者から発信される言葉、表情、動きや呼吸、循環をはじめとする生理学的生命徴候(バイタルサインズ)などの様々なパフォーマンスデータをモニタリングしています。その結果、単独或いは複数のモニタリングで得られたデータに看護にとって(患者にとって)必要な意味づけ、解釈を施し情報とします。その情報をさらに分析する作業がアセスメントであり、そこから患者が有する看護上の問題が抽出され、それに対する看護戦略が検討・実践されるわけです。その後、実践の結果に対する評価のためにもモニタリングを行う必要があります。つまり、患者の全身情報を監視し、患者の健康に関連する生体の正常・異常を早期に判別する指標、回復を促進させるための治療や看護ケアの影響に関わる評価指標を得ることです。モニタリングすることで、データ収集からの情報化、それを手掛かりとしたアセスメント、アセスメントからの問題発見、問題を改善に導く看護ケアの提供へと繋がってゆくこととなります。さらには、実践した看護ケアを客観的に評価する道標としてもモニタリングが活用できます。この一連の過程を一般に看護過程と呼び、モニタリングはその中であって欠くべからずパフォーマンスとして位置づけられます。したがって、看護におけるモニタリングは、看護を実践するために不可欠な能力でもあり、技術でもあります。それ故、モニタリングの能力と技術は洗練し続けなければなりませんし、そうしなければ実践においては役に立たぬものになってしまいます。

本セミナーでは、モニタリングに纏わる看護の「業」についてお話ししたいと思います。



Edwards